

灌漑用水の水源を確保するためにつくられた日本最大の溜池「満濃池」。  
国家の安定を願ってつくられた世界最大級の木造建築「東大寺大仏殿」。  
奈良時代、これまでにない巨大な構造物をつくるこの国家プロジェクトは  
大陸で建設技術を学んだ遣唐使や渡来人によって実現された。

# 偉人伝

the life of a great person

土木  
建築

VOL.2

建築

「生没年不詳」

## 猪名部 Momoyo Inabeno 百世

世界最大級の木造建築  
「東大寺大仏殿」を  
建立した



### 続日本紀にその名が記された名工

猪名部百世は朝廷の建築を担う機関「木工寮（もくりょう）」に属した。猪名部氏は木工技術に長けた集団で、一説には飛鳥寺や法隆寺などの建立にも携わったという。「日本書紀」によるとその始祖は、新羅王が倭国に派遣した造船・建築の技術者とされる。745年からはじまった東大寺大仏殿の建立では、百世は造東大寺司木工寮長上の棟梁を務め、幅約86m、奥行約50m、高さ約50mに及ぶ巨大な木造建築物を完成させた。「続日本記」には宮中に仕えた名工として、その名が残されている。

土木

日本最大の  
農業用溜池  
「満濃池」を修築した

## 空海

Kukai

「七七四年～八三五年」



### 干ばつと洪水から人々を救った土木技術者

空海は774年、現在の香川県善通寺市に生まれた。讃岐の郡司を務めた佐伯氏の出身で、都での生活を経て31歳のころ東大寺で得度受戒し出家。同年、留学僧として唐へ渡った。唐では仏教の「五明（ごみょう）」を修め、そのなかの「工巧明（くぎょうみょう）」に含まれる土木工学にも精通したという。空海は決壊を繰り返す満濃池を強固にするため、強度の高い「アーチ型」の堤防や水かさを調整する「余水吐（よすいはぎ）」などの新技術を取り入れた。1300年を経たいまも満濃池は田地を潤している。